

鳥取県におけるメタボリック症候群の調査研究が開始される

平成27年度疾病構造の地域特性対策専門委員会

- 日 時 平成28年1月14日（木） 午後2時～午後3時
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 13人
〈鳥取県健康会館〉
瀬川委員長、魚谷・岡田・藤井・細川各委員
オブザーバー：県健康政策課がん・生活習慣病対策室 村上室長
米田課長補佐、蔵内課長補佐
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任
〈鳥取県西部医師会館〉河合委員、清水委員

挨拶（要旨）

〈魚谷会長〉

ご多忙のところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

本委員会は年に1回開催し、鳥取大学医学部の先生を中心に行われている本県の疾病の地域特性調査研究の報告をしていただいている。この研究が、鳥取県の健康対策施策に反映されることを願っている。ご協力の程、よろしくお願いする。

〈瀬川委員長〉

ご多忙のところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、26年度報告、27年度中間報告、28年度事業計画案が主な議題である。平成26年度から平成27年度に代わるに際して一つテーマが代わっている、併せて報告する。

議 事

1. 平成26年度事業報告について

平成26年度の「疾病構造の地域特性に関する調査研究」と「母子保健対策調査研究」を纏め、第

29集を作成し、関係先に配布した。

（1）鳥取県における腎不全医療の実態調査と腎移植の推進に関する研究（平成13年度より開始）

鳥取県の透析患者数は1,491人で2年連続減少傾向にあるが、高齢化と長期生存及び認知症のため患者の管理が困難となっている。県内30人（7施設）のコーディネーターにアンケート調査を行い、27人から回答を得た。18歳未満の児童、青少年からの臓器提供に必要な虐待対応に関する院内体制の理解不足、6歳未満の小児からの臓器提供の脳死判定基準に関する理解不足などがあり、講習会が必要であると思われた。

また、先端腎不全治療（透析医療）もしくは腎移植を実施している山陰労災病院と広島のかね会を訪問し、その実態調査を行った。いずれの施設も患者の高齢化、認知症患者の増加などが問題となっている。

（2）鳥取県における肝がんサーベイランスの実態（平成25年度より開始）

昨年度に引き続き8施設で診療した182例の初発HCC症例の成因やサーベイランス遵守状況調

査を行っている。

平均年齢は72.5歳、HBVはHCV、NBNCに比較して若年であった。男性が68.7%、肝硬変合併が46.2%を占めていた。22.3%に飲酒歴があり、NBNCでは34.3%と、HBVやHCVに比較して高かった。NBNCではHBVやHCVに比較して、高血圧、糖尿病、脂肪肝、肥満などの生活習慣病の合併率が高かった。診断経緯は、8施設通院中49例、8施設以外通院中37例、8施設へ飛び込み17例、8施設以外に飛び込み79例で、通院中のHCC診断は86例（47.3%）であった。通院患者のサーベイランス遵守率はHBVでは76.9%、HCVでは70.2%であった。

また、サーベイランス有（57例）とサーベイランス無（125例）を対比すると、サーベイランス有ではサーベイランス無に比べて、最大腫瘍径の平均が小さく、AFP、PIVKA IIともに低かった。また、根治を狙った治療がサーベイランス有では73.7%に施行されたが、サーベイランス無では39.2%にしか施行されなかった。ガイドラインに従ってサーベイランスを行うことはHCCの早期診断と治療介入にとって有用であることが示唆された。

（3）鳥取県におけるがん罹患率・がん死亡および有病期間に関する要因についての疫学研究（平成21年度より開始）

1992年から2000年の間に基本健康診査を受診者と地域がん登録データから解析を行った結果、メタボ、構成要素である高血糖が肝臓がんの危険因子であるという一貫した結果が得られた。女性ではメタボががん死亡の危険因子であるということが明らかになった。これは子宮がんと乳がんがメタボとの関連が強いためであると考えられた。男性では、高血糖は危険因子であるという結果であったが、肥満は防御因子であるという結果になった。

（4）局所進行非小細胞肺癌に対する個別化集学的治療（平成26年度より開始）

鳥取大学医学部附属病院胸部外科で、2000年以降に術前導入療法後に根治的手術を行った局所進行肺癌20症例の周術期及び中長期的成績を検討した。

術前導入治療は化学療法のみ5例、同時放射線化学療法15例であった。術前腫瘍径の中央値は3.3cmで、術前導入療法でダウンステージが得られた症例は8例（40%）であった。

摘出標本による原発腫瘍径の中央値は2.2cmと小さくなっていた。5年全生存率は63.9%、5年無再発生存率は46.9%であり、従来の報告より良好な成績であった。病理病期0～I期の症例とII期以上の症例の5年無再発生存率はそれぞれ68.6%と22.5%であり、有意差を認めた。

術前導入療法によりダウンステージが得られ、切除後の病理組織診断においても主腫瘍の腫瘍径縮小やリンパ節転移巣の消失などの術前治療の効果が認められた。良好な予後が期待できることが示唆された。

（5）高齢者胃癌に対する腹腔鏡下胃切除の有用性と術後補助化学療法の安全性に関する研究（平成21年度～平成26年度で終了）

80歳以上の高齢者はStage IV 以外で80歳未満のものより予後不良となっている。

上腹部開腹手術が高齢者に対して呼吸器合併症を高率に誘発する。腹腔鏡手術と開腹手術と比べてみると、開腹手術に比べて腹腔鏡手術は手術時間が延長するものの、出血量が有意に少なく、術後合併症（呼吸器合併症や腸管癒着障害）が有意に少ないことが判明した。従って、75歳以上の高齢者の進行胃癌手術の第一選択は腹腔鏡手術としており、2014年には腹腔鏡手術の割合は90%近くに達している。

また、根治度AまたはB手術を施行した症例に対してTS-1を用いた術後補助化学療法の4週投与2週休薬の標準投与方法と、隔日投与方法の投与完

遂性、安全性、効果について比較検討した。隔日投与群で優れた結果を得た。これは、非血液毒性有害事象発現が有意に少なかったことによると考えられた。一方、全生存期間、無再発生存期間共に通常投与群と隔日投与群に差はなかった。

(6) 母子保健調査研究：鳥取大学医学部附属病院NICUに入院した社会的ハイリスク妊婦から出生した児の検討

2013年4月から2014年3月に当院NICUへ入院した401名のうち、医療福祉支援センターに紹介となった32名の中で、社会的リスクを持つ症例17例を対象とした。

期間中1ヵ月間の新生児センター入院患者33名と社会的リスクを持つ症例17例と比較すると、母の社会的要因として未婚、精神疾患、経済問題、過去の介入歴が高率となっていた。また早産児が50%近くをしめ、入院日数は対照の2倍以上となっていた。

社会的リスクを有する症例では乳児にとって安全な状況で退院するための育児指導や地域との調整に時間がかかるため、結果的に入院日数が長くなっていると考えられた。また外来受診において自己中断例が認められているが、そのフォローや情報共有が不十分である。これらには地域との連携強化が必要と考えられた。

2. 平成27年度事業中間報告について

「高齢者胃がんに対する腹腔下胃切除の有用性と術後補助化学療法的安全性に関する調査」が平成26年度で終了し、平成27年度より新たに谷口晋一教授にお願いして「鳥取県におけるメタボリック症候群の現状と課題」を開始。

(1) 鳥取県における腎不全医療の現状調査と腎移植の推進に関する研究

引き続き、鳥取県臓器バンク、患者団体である腎友会、さらに県内外研究者の協力を得て、鳥取県における腎不全医療の諸問題を把握し、その解

決方法を探る。

鳥取県民の臓器提供に関する意識アンケート調査を10代～80代の県民計800人を対象に行ったところ、意思表示カードの認知率84.8%、所持率73.5%、意思表示率22.3%であった。免許証等の更新に伴い意思表示欄のあるものに移行し、所持率は徐々に増加している。

提供に対する考えは、提供してよい46.6%・提供したくない7.9%・わからない45.5%で、「わからない」が半数近いことから、移植医療についての啓発啓蒙の継続が必要である。

また、今年度は広島市の太田川医院と鳥取市の吉野・三宅ステーションクリニックに施設訪問を行っている。

(2) 鳥取県における肝細胞癌サーベイランスの実態調査

引き続き、鳥取県内7病院を対象として、平成26年度初発HCC診断の実態調査を行い、患者背景、成因、性状、診断経緯、治療法等を集計したところ、非B非C型（NBNC）者率が増えており、高血圧・糖尿病・脂肪肝・肥満の生活習慣病の合併率が高いという特徴がある。

NBNC者に対しての早期診断の方策が難しいなかで、今後どのように対応していくのか調査を行う。また、通院患者のサーベイランスの遵守率が良い施設と遵守率が悪い施設との間で血液検査や治療法においてどのような差があるかという分析も行っている。

(3) 鳥取県における高齢者のがん罹患、がん死亡についての疫学研究

地域がん登録のデータを解析し、高齢者のがん罹患、がん死亡の特徴を、65歳未満、65～74歳、75歳以上に分けて解析することにより、高齢者のがんの疫学的特徴を明らかにする。

2003年と2012年の年齢階級別にみた罹患数の多いがんを比較すると、75歳以上の男性の胃がんが大きく増加していた。肺の罹患数もやや増加し

た。各年齢階級で前立腺がんの罹患数も増加した。女性では、65歳未満の乳がんも子宮がんも罹患数が増加した。2012年では75歳以上の肺がんも増加した。女性では高齢の膵がんが多いのも特徴である。前立腺がん等検診受診者の増加で説明が付きそうなものもあるが、男性の高齢胃がんの増加や高齢女性の肺がん等、がん検診受診率が急増したわけでもないのに起こっている現象の分析が重要となってくる。これらをみても、高齢者のがんを中心に罹患数が増加しており、人口減少が続く鳥取県であるが、がん医療を必要とする対象者は、まだ増加し続ける可能性が高い。今後高齢者のがんに特化した対策の検討も必要となってくるものと考えられる。

(4) 鳥取県における悪性中皮腫の治療に関する実態調査

悪性中皮腫はアスベスト曝露が主たる原因となって発症する悪性腫瘍で、極めて悪性度が高く予後不良の疾患である。2001年～2015年までに鳥取大学医学部附属病院で悪性胸膜中皮腫患者は23名であった。平均年齢63.3歳、性差は男性19名、女性4名で、アスベスト暴露歴は14名（60.9%）で、発見動機は呼吸困難、胸痛等の自覚症状が20名（87.0%）で、検診発見は3名のみであった。治療は手術6名（26.1%）、化学療法18名（78.3%）、放射線療法1名（4.3%）で、予後は平均生存期間13.4ヶ月と極めて不良であった。

標準治療の確立が難しい中で鳥取県では進行例が多く、満足できる治療が施行できていない現状を解析して今後の課題を見つけて、どのように解決に向けていくのかまとめていく。

(5) 鳥取県におけるメタボリック症候群の現状と課題

特定健診と保健指導の有効性を評価するため、国は平成23年度と平成20年度の特定保健指導対象者を平成23年度の人口比で推計し、その低減率を計算した。その結果、全国平均でマイナスとなっ

たものが、鳥取県だけがプラスで推移しており、プラスとなったのは全国で鳥取県のみであった。鳥取県だけがなぜメタボ陽性者（特定保健指導対象者）の割合が増加したのかを明らかにする。中間報告として、鳥取県のメタボ低減率がプラスになった背景には、母集団として保険者数の多い市町村国保・協会けんぽの受診率の増加に比較して、潜在していたメタボ層が多くスクリーニングされたためと考えられる。いいかえると、鳥取県は今まで受診率が低かったために、バイアスのかかった比較的健康な集団が優先して検診を受けており、啓発活動の進展により潜在していたメタボ層がデータに参入した結果、見かけ上のメタボ陽性者が増加したといえるであろう。来年度は、年代別、保険者別、エリア別に、どのような層にメタボ層が潜在抽出されているかを同定し、今後の特定保健指導のターゲットをより絞っていくための手がかりを得たいと考えている。

(6) 母子保健調査研究

タンデムマス法による新生児マス・スクリーニング法によって見出される新しい代謝異常症の発生頻度・異常遺伝子の解析。

低出生体重児、特にSGA児、身長予後とそれに関係する因子の検討。

以上の報告に対し、次の意見等があった。

・臓器提供の意思表示率が22.3%でありあがっていないとのことだが、現在行われている啓発活動と今後、どのような啓発活動を行われる予定か。

⇒臓器バンクにおいては、移植コーディネーターが2人おり、学校教育における啓発として臓器提供をテーマとした講演や企業においても行っている。街頭キャンペーン、グリーンリボン公開講座として移植に関わっている医療者や今年度は心臓移植を受けられた方、脳死臓器提供された家族の方に体験談を話していただき、県民への啓発を行っている。

・複数科にまたがるデータの引用は、該当する他科の了承も取るべきであるという指摘もあった。

3. 平成28年度事業計画（案）について

平成28年度事業計画案が以下のとおり提出があった。

（1）鳥取県における慢性腎臓病（CKD）と腎不全医療の現状調査と腎移植推進に関する研究

引き続き、鳥取県臓器・アイバンク、中国腎不全研究会や中国四国臨床臓器移植研究会さらに県内外医療人の協力を得て、鳥取県における慢性腎臓病（CKD）を含む腎不全医療の諸問題を把握し、その解決方法を探る。

（2）鳥取県における肝細胞癌サーベイランスの実態調査

引き続き、鳥取県内7病院を対象として、平成27年度初発HCC診断の実態調査を行い、サーベイランスの遵守率状況や成因の経年変化などの検討を行う。NBNC HCCの早期診断対策は、高血圧・糖尿病・脂肪肝・肥満の生活習慣病を有した高齢男性を対象とし、腹部超音波検査などによるサーベイランスの実施に向けて、治療医師との連携をとりながら、調査に向けて調整を行う。

（3）鳥取県における年齢階級別、部位別のがん罹患数およびがん死亡数の将来予測

がん対策の評価指標には、75歳未満年齢調整死亡率が用いられているが、実際現場に必要なマンパワー、検査や治療などの医療サービス、医療施

設等の量は、患者や死亡数の実数に依存する。

10～20年間の罹患率や死亡率の増減が今後も同じ傾向で増減しつづけたと仮定した場合に鳥取県におけるがん罹患数や死亡数、あるいは有病数がどのように推移するかを将来予測することとする。

（4）高齢者肺癌に対する術後補助化学療法の有効性に関する研究

高齢者肺癌に対する術後補助療法の適用率、治療完遂率、予後、問題点を検討して、鳥取県の現状にマッチした高齢者肺癌に対する術後補助療法の意義と今後の方針を考察する。

（5）鳥取県におけるメタボリック症候群の現状と課題

平成23年度時点でのメタボ低減率がプラスになった背景として、受診率増加とともに新たに参入した若年世代のメタボ陽性者が増えておりその特性を明らかにすること、メタボ該当者への特定保健指導の実施率が低い要因を明らかにすること、そして都市部だけでなく中山間地の若年世代でメタボ陽性率の高いエリアの特性を調査することを、今年度の目標としたい。

（6）母子保健調査研究

平成27年度調査内容を引き続き行う。

提出された28年度事業計画案は実施して頂くことは承認された。

本会の理事会、委員会等で新しい研究テーマのお話があれば、必要に応じて今後検討していきたい。